

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	オンライン砺波A		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 9日		~ 2026年 1月16 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 4人	(回答者数)	4人
○従業者評価実施期間	2026年 1月 9日		~ 2026年 1月16 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 7人	(回答者数)	7人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 29日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・視覚スケジュールを用いた無意識の習慣化	・視覚カードを用い、健康や生活に関する活動を習慣化しています。 ・児童発達支援からつづく緩やかな小学校生活への適応を意識し、しなければならないことが「無意識」のうちに、「順番」にできるように取り組んでいます。 ・スケジュールなど大きなルールの中で、個々に適した支援プログラムを準備しています。	・放課後等デイサービスで使用している視覚スケジュールへの対応をスムーズにするため、写真や色分けを工夫していきます。
2	・個別指導や小集団活動など様々なプログラムを用意している。	・個別支援、集団支援(音楽系、アート系、デジタル系)など、様々なプログラムをご用意しており、お子様の特性や趣向に合わせて、保護者様と参加プログラムを自己決定できるようにしています。また、活動時間についても、お子様の発達段階に応じて柔軟に対応しています。	・事前のアセスメントやお子様の興味・関心に基づき、強みをさらに伸ばすプログラムとして個別支援計画に位置付けます。
3	・契約時からの丁寧な説明、日々のコミュニケーションに配慮をしている。	・送迎時の情報共有と、活動内容や成長を伝えるLINE報告を徹底しています。	・送迎時やライン連絡で、お子様の様子に関する具体的な声掛けによる情報共有をすすめます。これにより、さらに事業所と家庭が連携して支援できる基盤を築くようにしていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・利用していただく頻度が低く、習慣化が進みにくい。	・放デイと同じ場所で行っているため、利用時間に制限がある。 ・利用されるお子様が年長児のため、保育園や子ども園への登園を優先される傾向がある。	・就学前に伸ばしたい力やつけたい習慣についてご理解いただき、頻度や時間帯について相談しながら柔軟に対応してまいります。
2	・体を使った活動が制限されている。	・建物の構造	・バランス感覚や身体の深い感覚、触覚へのアプローチなど、適切な感覚を適切な量で、成功体験とともに取り入れてまいります。
3	・地域社会との交流機会の不足	・行事や企画が事業所内での活動に留まり、地域施設や住民との交流の機会が少ない。	・地域社会との交流に向け、まずはオンラインの他事業所のお友達やご家族との交流に慣れることから始めていきます。